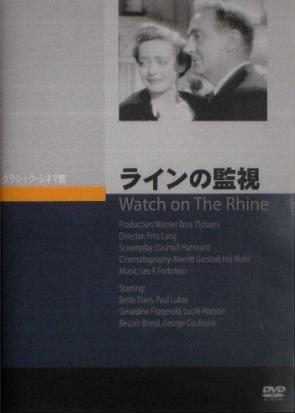


『ラインの監視』 原題 <i>Watch on the Rhine</i> 1943 年	執筆：清水 純子
制作国	アメリカ
スタッフ&キャスト (監督、脚本家、俳優、その他)	<p>スタッフ：監督ハーマン・シュムリン/ 脚本 ダシール・ハメット/製作ハル・B・ウォリス/ 音楽 マックス・スタイナー/ 撮影メリット・B・ガースタッドハル・モア/ 編集 ルディ・ファー/</p> <p>キャスト：ベティ・デイヴィス：サラ・ミュラー/ ポール・ルーカス：クルト・ミュラー (サラの夫) / ジェラルディン・フィッツジェラルド：マルト/ ルシル・ワトソン：ファニー (サラの母) /</p>
画像	
カラー・モノクロ	モノクロ
時間	114 分
ストーリー	<p>ワシントン郊外の裕福なファレリイ家では、娘サラがドイツ人の夫クルトと3人の子供たちの18年ぶりの帰国を待ちわびていた。クルトは反ナチの抵抗運動家であり、傷ついた身体を休めに妻の実家を頼ってやってきた。ところが、ファレリイ家に先客として居候しているルーマニアの没落貴族ブランコヴィス伯爵が金銭目当てでドイツ大使館にクルトを密告したために、クルトは危険を承知でドイツに一人帰国しなければならない。クルトは、組織の仲間のために伯爵を射殺し、ファレリイ家の人々も黙ってクルトを見送る。</p>
時代設定	1941 年春
場所	ワシントン郊外
社会背景	<p>ドイツは経済的逼迫のためにヒットラーを支持する人々がナチスに政権を取らせた。ドイツが日本を交えて第二次世界大戦の口火を切る。1941年春の時点では、アメリカはフランクリン・ルーズベルト大統領のもとで孤立主義を守っていたが、参戦の機会をうかがっていた。</p>
文化的背景	<p>ナチスドイツを嫌ってアメリカに亡命するヨーロッパ人が多くいた。貴族に象徴される没落するヨーロッパと、ファレリイ一家が代表する豊かなアメリカ。</p>
使用言語	英語、ドイツ語
テーマ	自由への戦い、ナチスによる独裁主義と全体主義の撲滅への抵抗。

みどころ	アメリカ人のサラがドイツ人の夫クルトの自由への戦いを支持して、危険も顧みずに協力する。クルトの命を懸けて自由のためにナチスドイツに抵抗するその勇気。クルトの闘志を応援するアメリカ人一家。
印象深いセリフ	- There are men in your country and in mine who fight on. - I know. - I have friends among them. - What do you do? I mean, what's your trade? - I? I fight against fascism. That is my trade.
授業教材用 メリット	第二次大戦直前のアメリカの状況がよくわかる。自由の大切さ。セリフは多いが、作りはハードボイルド。
授業教材用 デメリット	舞台の映画化であるため、場面設定が固定的で、映画的場面展開に乏しい。セリフに重点を置いて物語が進行するので、集中力がない学生には不向きである。
映像入手元	ジュネス企画
原作の有無	リリアン・ヘルマンの同名の戯曲
支持反応	Rotten Tomatoes 評価（批評家 80、観客 62）
キーワード	ドイツ、ナチス、ヒットラー、反ナチ、地下運動、密告、陰謀、殺害、貴族。

Copyright © Junko Shimizu All Rights Reserved.

★本サイトに掲載される情報の著作権は、清水純子に帰属します。

許可なく複製、改変、アップロード、掲示、送信、頒布、販売、出版等を禁止します。